

# 4月3日（木）

## アウシュヴィッツ強制収容所博物館・収容所跡



### アウシュヴィッツ・ビルケナウ 第二収容所

「死の門」と呼ばれた収容所入口のゲートへと続く、鉄道の引き込み線。ヨーロッパ各地から貨物列車で移送されてきた人々のほとんどが、この門をくぐって二度と外に出ることはなかった。

現在は門をくぐった先、線路が尽きるところに、国際慰霊碑が建てられている。

### ビルケナウ第二収容所

アウシュヴィッツ・ビルケナウ収容所は、第一強制収容所から約2キロ離れたところにある。ガス室での殺戮を目的にした絶滅収容所として新たに設置されたため、第二収容所と呼ばれている。10万人規模の収容力をもつ、第一収容所よりも格段に規模の大きな強制収容所である。

写真は、移送されてきた人々が降り立ったプラットフォーム跡。ここで被収容者の選別が行われた。一方は「労働者」「人体実験の対象」として、他方はガス室へと送られたのだ。



### 鉄道引き込み線の終着点

ビルケナウ第二収容所の最奥部、国際慰霊碑付近から「死の門」方向を見たところ。「死の門」をくぐった線路が二手に分かれているところにプラットフォームが置かれていた。

この収容所がいかに広大なものであるかが、この写真からもわかる。

## ドクロマークの看板

アウシュヴィッツ第一収容所を囲む鉄線沿いに立てられている。その看板は、鉄線に立ち入ったら死を意味する、と警告している。

当時の強制収容所とは、「我々にとって危険な人物(神父など、社会のリーダーを指す)を一時収容するものである」という認識がまかり通っていた。



## 死の池

焼却炉で焼かれた人の骨は、砕かれて川の流が速いところに捨てられていた。しかし、死体の数が増えると、そうした骨をこの池に投げ込んだため、死の池と呼ばれるようになった。



ガス室を作った理由は、苦しめて殺そうとしたのではなく、効率を考えた結果のことであった。

死の壁(写真右)と呼ばれる銃殺場所があったが、銃殺ではドイツ人の精神的負担になる上に、時間がかかる。殺害されるユダヤ人よりはるかに多くのユダヤ人が移送されてくると、収容しきれなくなったため、殺害のペースを上げる必要があった。ガス室はそのための施設として設置された。左の写真は第一収容所にあるもので、大量殺戮以前に設置されたものだが、そこで毒ガス、チクロンBの使用が常態化することになる。これはもともと害虫駆除のための殺虫剤であった。まさにダヤ人は害虫と同様とみなされ、人として扱われなかったのである。



## ビルケナウ第二収容所

広大な土地に建ち並ぶバラックと、それを囲う有刺鉄線。今もなお、当時と変わらぬ殺風景な風景をつくりだしている。

## 破壊されたクレマトリウム

ビルケナウ収容所には5基の大規模なガス室とクレマトリウム(焼却施設)を備えた施設があった。大戦末期、ドイツの敗色が濃くなり、収容所が連合軍によって解放される日が近づくと、これらの施設は証拠隠滅のために親衛隊らによって爆破された。

写真の左側の細い溝の部分が脱衣施設のあと。その奥にガス室があった。ガス室の上階がクレマトリウムになっていた。

